

大草谷津田いきものの里 自然観察会

目指せ！ トンボ博士

石嶋基次（千葉市）

日 時：2013年 5月19日（日） 天候：晴
参加者：大人18名（男性9・女性9） 子ども11名 計29名
担当指導員：松本美千代・石嶋基次

心配していた天気は晴れとなり、観察会が始まる時には強い日差しになり、木陰に入ってもらい、大草谷津田の経緯と注意事項、今日のテーマの説明を聞いてもらう。初めての参加者3組は、市の広報（1）・ネット情報（2）を見て参加された。

トンボ博士を目指すにはトンボのことを良く知って仲良しになることを話し、トンボを捕獲して観察するために各自、網を持って谷津田に行く。

田んぼでは地元管理組合の方たちが軽自動車で耕運機を持ち込み、地下水をポンプで汲み上げて、水路から田んぼに引き入れて、代掻きを朝から行っていた。田圃作業が行われているので、参加者には事故の無いように注意を呼びかけ、安全第一で離れた場所で捕獲する事にした。代掻きの終わった田んぼは後日、千葉市の「田森クラブ」が田植えを行うとの事。代掻きが進んだ田んぼにはシュレーゲルアオガエルの泡の卵塊が所々に浮いていて参加者には珍しい光景も、早期に孵化した幼生も泥の中に掻き混ぜられ、トンボも田んぼから遠ざかり、生き物たちには災難な日だった。

作業地域から離れた南側の東邦大近くの林縁でトンボを捕獲して、同定・全長測定・マーキングをして記録を付け、トンボの誕生、飛翔、産卵など生態を説明した。谷津田とトンボの繋がりが大切で、周囲の斜面林が各種のトンボの生育に大きな役割をもっている事を説明。トンボ博士を目指すには、いろいろなトンボとの出会いが必要と伝える。

最初は捕獲する事も大変で、翅を傷めないように網から取り出し、片手で持つ事を習いながら網を振っていました。家族連れで参加した父親が子ども達に教えていましたが、父親も経験不足なので思うようになりません。それでも親子が仲良く楽しんでいました。

捕獲結果はシオヤトンボ♂7 ♀4・ニホンカワトンボ♂1 ♀2の成果で、水路でカワトンボが捕獲され、発生が確認された。トンボの種類が少ないが、下見ではハグロ・シオカラを目視している。前日に代掻き作業の有ることが判り、現地でのヤゴの採取が困難と判断、他所で用意したシオヤ、シオカラ、オニヤンマのヤゴ類をみせて生育場所や期間を説明した。

参加者の感想

- * 捕ったことの無いトンボがみられてよかった。
- * 羽化したトンボが森の中でムシを食べて、からだを作っていくことが解ってよかった。
- * 翅をチョキで持つのを知ってよかった。

田圃作業と観察会が重なり落ち着いたなかった。作業との調整は難しいか？

